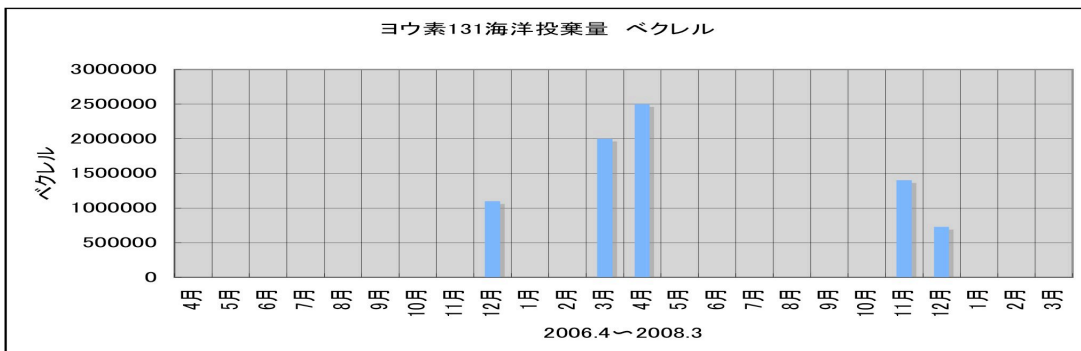
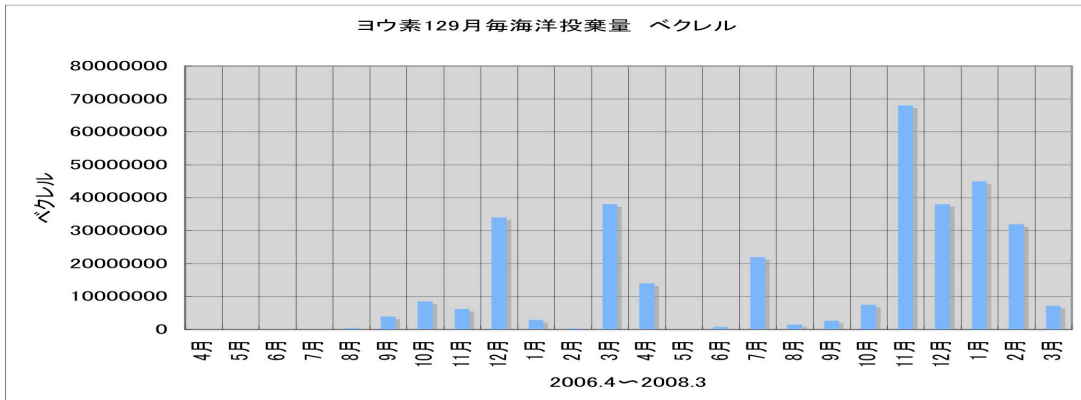
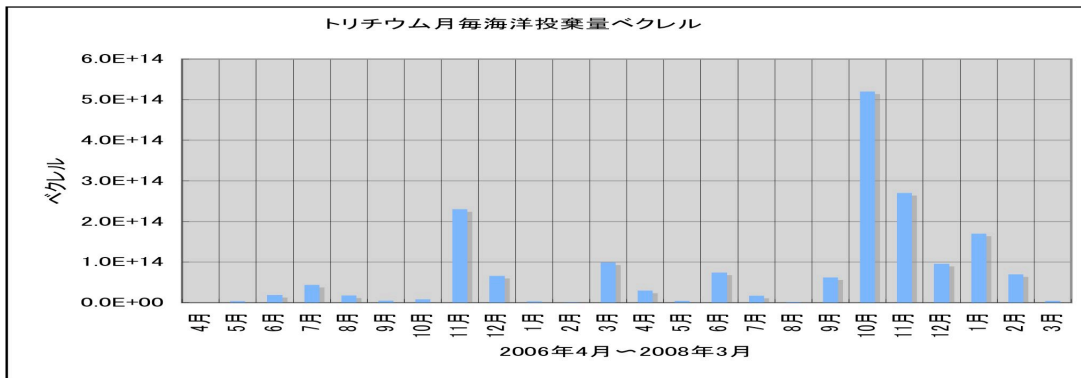
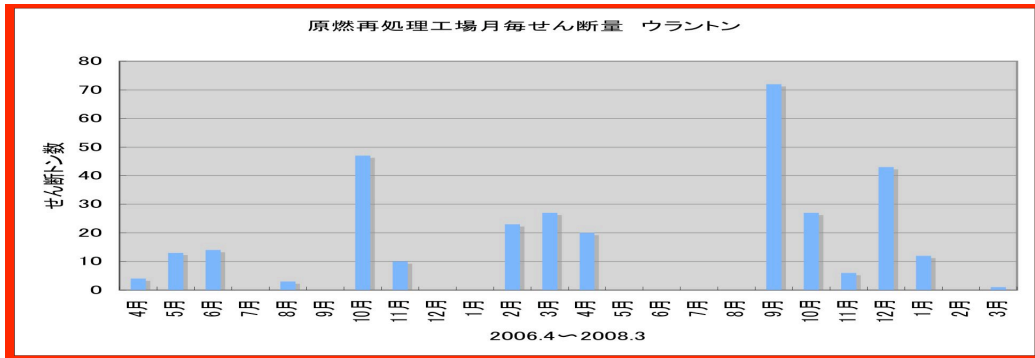
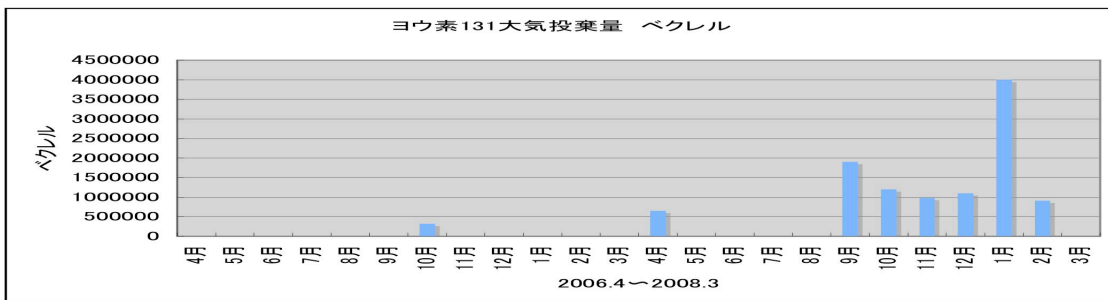
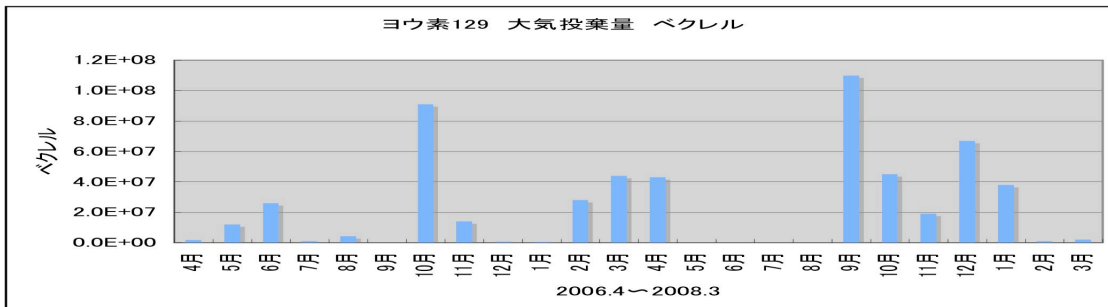
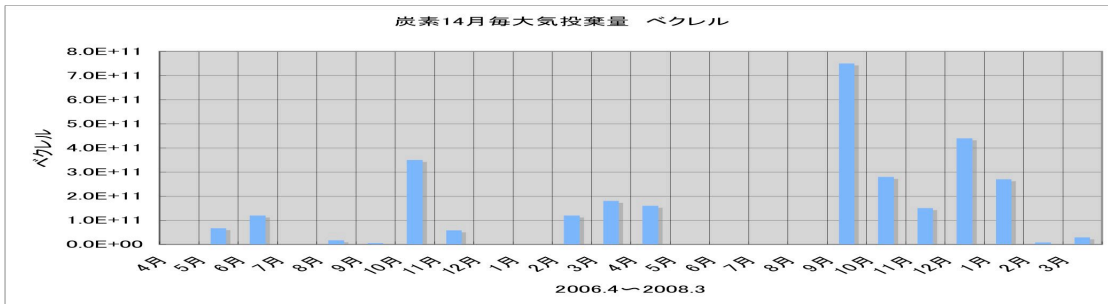
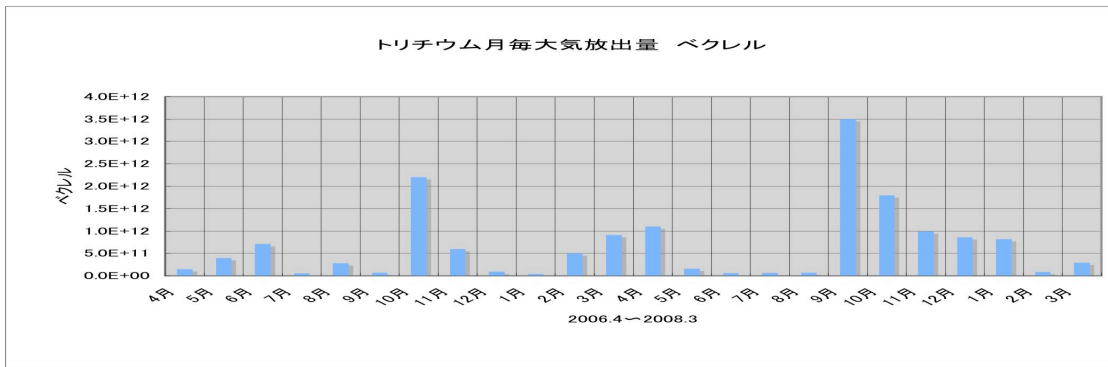
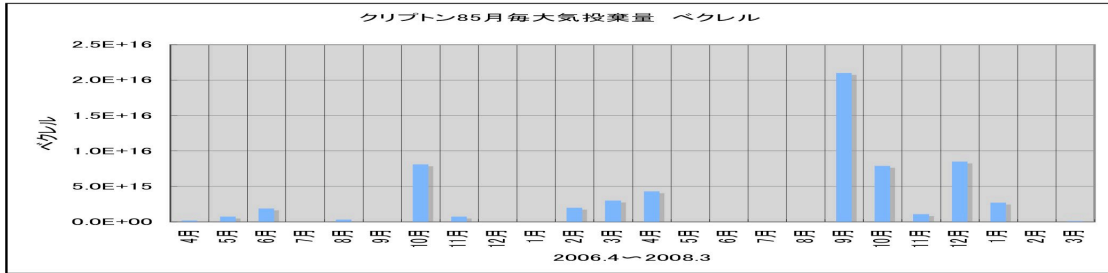


2008.5

せん断量とトリチウム等海洋投棄量、クリプトン 85 等大気投棄量図
 2006.4～2008.3 月毎の変化（三陸の海を放射能から守る岩手の会）



(空へ)



グラフからわかること

【せん断グラフ】06.10月、07.2月～4月、07.9月～1月のせん断量が多かったことがわかります。07.9が最大の72トン、次いで06.10の47トンでした。07.8～08.2第4ステップで160トンとせん断量が多くなりました。

○ 海洋へ投棄された放射能

せん断月とは1～2月遅れで投棄されている傾向

〔トリチウムグラフ〕せん断グラフと比較すると1ヶ月遅れで比例している傾向が伺えます。07.9～08.1のせん断グラフと07.10～08.2のトリチウムグラフを比較して見てください。しかし07.2～4のせん断による投棄は投棄と比例関係は判然としません。

〔ヨウ素129グラフ〕せん断と明瞭な関係は見られません。しかし、06.10や07.9のせん断ピークが06.12や07.11のヨウ素129投棄ピークになっていることから2ヶ月後にヨウ素129投棄に反映されているのかもしれませんが。

〔ヨウ素131グラフ〕10の6乗（百万）ベクレルオーダーであり、他の放射能と比較し桁が少ないこともありせん断との関係はあまりないようです。ヨウ素131は半減期が8日と短いのですが、高レベル廃液中のプルトニウム240等の自発核分裂で発生し、それが放出されます。ガラス固化体製造が始まった07.11～12の発生はその関係かと推定できますが、07.3～4の発生の原因はわかりません。

○ 大気へ投棄された放射能

せん断と相関関係が伺われる放射能はクリプトン85、トリチウム、炭素14、ヨウ素129であり関係がはっきりしない放射能はヨウ素131でした。

月毎せん断量と月毎投棄放射能ベクレル数についての相関関係図を以下に掲載します。これにより、ウラン燃料1トンあたり発生するクリプトン85や炭素14などの量がある程度推定できます。（ウラン燃料の燃焼度を確認していませんので、それを前提にしてですが・・・）

